

◆ CTP化と同時に完全無処理を探用

馬」のほか、地方競馬の専門紙などを手掛けてい  
る。日刊競馬の出荷部数は8万部を誇り、本社のほかにも札幌・函館・福島に生産設備があり、4年前から順次CTP導入を開始した。

また、CTP導入当初から一気に完全無処理版

環境負荷の軽減は今や企業経営に深くかかわる課題となつた。廃棄物削減、節電、省資源などの取組みは、コスト削減、生産性向上など社内のコストパフォーマンスを改善する上で有効な手段となり得る。こうしたなかで富士ラフィルムグラフィックシステムズ（吉田整社長、本社・東京都千代田区、以下FFGS）のサーマルCTPシステムECONEX II、完全無処理CTPシステムECO & FREE「XZ-R」は、環境とコストパフォーマンスを両立させるソリューションとして注目されている。FFGSの環境ソリューションが実際にどのような形で経営、現場にメリットをもたらしているのか。XZ-Rを採用した日刊競馬新聞社（谷由紀社長、本社・東京都品川区）の印刷部門関連会社である三平印刷所の事例から探つてみたい。

環境対応の決め手を探る

日刊競馬新聞社（東京都品川区）

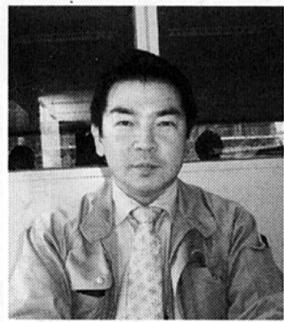
<9>

## FFGS CTPシステム導入企業の先進的取組み

環境性と品質を高めたX Z-R採用

採用に踏み切り、生産効率化、環境対応に大きな効果を上げている。

玉川工場長



谷社長

能になつてい  
る。 「検版につ  
重要。一気に5万5千回  
が勝負だけに刷り出しが  
一当社にとては時間

リニユールは画期的。

理すら不要な完全無処理は大きなメリット。一工程増えるのはもったい

な工埋  
だ



G P認定制度にもチャレンジ

導入の経緯を語る。ま  
た、「C.T.P.導入当時はフ  
ィルム出力が残っていた  
ので現像機を置くスペー  
スが取れなかつた」こと  
も大きな理由だった。  
一方、印刷現場では  
現像機のメンテも含め、

像、返しの現像、刷版現  
像と都合3回の処理を行  
ついたため、完全無処  
理化による合理化メリッ  
トは大きな魅力だつた。  
さらに、以前は出力・

工程合理化にも貢献する「XZ-R」

◆品質、生産性、環境性を同時に達成

トは大きい  
谷社長も「すでに現像  
廃液用のタンクは撤去し  
て。これまで使用して、ハ

夫」とXZ-1（玉川工場長）の性能に太鼓判を押して、いる。

◆あらゆる印刷条件にマ  
チ (玉川工場長)  
とで対処することにし  
た」(玉川工場長)  
像残りで文字が見えない  
といつた事故は許されな  
い」(玉川工場長)  
等の  
ラン  
た、  
X-Z-R以前は水の絞  
た、  
ツチ

迅速な刷り出し性  
優れた水／インキバ  
スを実現した。ま  
CTPセッターの生  
をフルに発揮できる  
最速の露光感度を有  
いる。もちろん、現  
理不要のため、現像  
経費が一切かから  
コストダウンにも貢  
環境性と品質を高い  
で両立した。「ガム処  
ら不要な完全無処理  
きなメリット。一工  
えるのはもったいな  
ある。  
現在、三平印刷所では  
日印産連のグリーンプリ  
ントイング認定制度への  
申請を準備している。す  
ぐに講習が終わってお  
り、今秋の認定を目指す。  
XZ-Rによって品質、生産性、環境性にお  
ける完全無処理版のメリ  
ットは、ますます明らか  
なものになっているよう

article Dispersion 細粒分散技術) の技術を用いて、環境効果を認める。

「大」と「XZ-R」の性能に太鼓判を押している。この環境面のメリッカは大きい。

◆品質、生産性、環境性を同時に達成

無処理CTPプレート「XZ-R」はFPD技術

工程合理化にも貢献する「XZ-R」

今回の導入事例でも現像液が全く発生しないことでの環境面のメリッカは大きい。

谷社長も「すでに現像液用のタンクは撤去した。これまで使用していた7台の自現機やフィルムを全廃できたことと併せて、そのCO<sub>2</sub>削減効果は計り知れない。今後